

---

# キャリア教育アンケート調査

～調査報告書～

2011年9月

# 目次

---

■ 調査概要	・・・4P
■ 総括	・・・5P～9P
■ 集計結果1:	・・・10P～16P
■ 集計結果2:	・・・17P～22P
■ 集計結果3:	・・・23P～25P
■ 添付:矢野経済研究所 会社概要	・・・26P

---

## ■ 調査概要

# 調査概要

## ■ 調査目的

私立学校法人の「キャリア教育」の取り組み状況、課題・問題点を把握し、学校側への「キャリア教育」のサポートなどに役立つ基礎情報を得る。

## ■ 調査方法

郵送アンケート調査

## ■ 実施期間

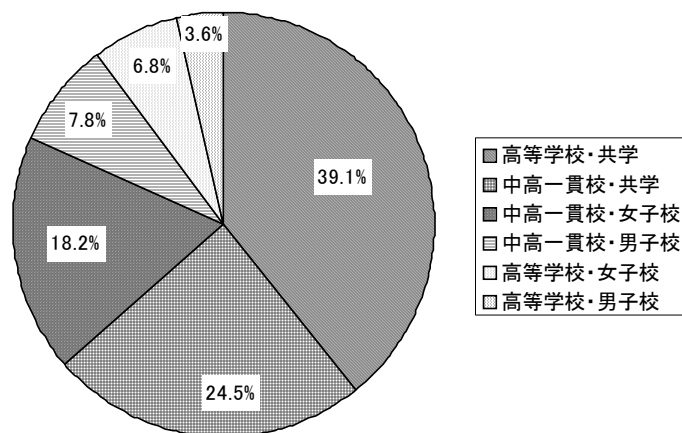
2011年7月6日～2011年7月29日

## ■ 調査対象

・日本全国の私立学校法人 1,262社 学校長およびキャリア教育担当者

・回答校数 192校(回収率15.2%)

(回答校の校種内訳 n=192)



(回答校の校種内訳)

校種	校数	構成比
全体	192	100%
1 高等学校・共学	75	39%
2 中高一貫校(中等教育学校含む)・共学	47	24%
3 中高一貫校(中等教育学校含む)・女子校	35	18%
4 中高一貫校(中等教育学校含む)・男子校	15	8%
5 高等学校・女子校	13	7%
6 高等学校・男子校	7	4%

校種	校数	構成比
全体	192	100%
1 中高一貫	97	51%
2 高等学校	95	49%

---

## ■ 総括

# 総括

## ■集計結果1: キャリア教育実施状況(p10~p16)

### 実施有無

**「8割以上が実施している」**(81.8%)

校種別(中高一貫・高等学校)の  
違いはみられない。

「これから実施する」(6.3%)を含めると  
約9割に達する(88.1%)

### 導入年数

「5年以内が3割以上」(31.2%)

「10年以内を含めると約5割」(47.8%)  
を占め、過半が**新しい取り組み**

古くから導入(11年以上)は、2割(19.1%)程度

### 実施時間の増減

**「変わらない」**(44.0%)

**「増えている」**(34.0%)

「減っている」(2.0%)

「変わらない」+「増えている」=(78.0%)

### 実施学年

中高一貫:「中学1年～高校3年」(21.6%)

高等学校:「高校1年～高校3年」(41.1%)

**長期的な取り組みとして実施**

高校3年は実施せず、受験期を除く傾向もある

### 今後、実施したい内容

**「外部講師を招いての講演」**(58.3%)

外部講師の説得力、外部からの「新しい刺激」に期待

### 中止理由

**「時間がない」**(教員不足、教科指導の妨げ)

### 実施しない理由

**「準備の時間がとれない」**(31.6%)

## キャリア教育実施状況

・キャリア教育は殆どの学校で「実施している」(81.8%)結果となった。その一方で導入年数については、実施校の約半数が10年以内となっており、比較的新しい取り組みであることがわかる。校種別(中高一貫・高等学校)による大きな違いはないが、高等学校の「実施を考えていない」が若干多い傾向となっており、中高一貫より短期間しかない高等学校は、「より受験に専念している」と考えられる。

・実施学年は、中高一貫:「中学1年～高校3年」、高等学校:「高校1年～高校3年」がそれぞれ最も多い結果となり、キャリア教育を長期的なプログラムとして実施していることがわかる。高校3年は実施しないケースも見受けられ、受験期を除く配慮をしながら長期的に取り組んでいることが窺える。

・実施時間については「変わらない」(44.0%)が最も多く、その次に「増えている」(34.0%)が続く結果となった。「変わらない」理由は「増やしたい思いはあるが時間がない」など時間的に余裕がないケースが挙げられる。また、**プログラム内容の充実や固定化が先決で、時間を増やす段階に至っていない**との声も目立っている。「**自校のみではプログラムの発展性がなく充実させることができない**」などの**ネガティブな理由も出ているが、今後、対象学年を上げ「増やす予定」との前向きなケースもある**。「増えている」(34.0%)については、外部講師の必要性や対象学年の拡大などキャリア教育の効果が得られたことが後押しし、積極的に増やす傾向となっている。「**教員が積極的に取り組むようになった**」や「**保護者・卒業生の理解が得られプログラムが多様化した**」など周囲を巻き込むことも必要であることがわかる。

・「実施していたが中止した」および「実施しない」の理由は、ともに「時間がない」という結果となった。**慢性的な教員不足などの背景もあり、余裕のない学校については「実施したいができない」事情があると想定される**。

・今後実施したい内容は「外部講師」(58.3%)が最も多かった。普段、授業で接している教師より外部講師のほうが「説得力を持つ」や、外部からの「新しい刺激」などの期待があるようだ。加えて前述の「時間がない」と関連し、**外部機関に委託する傾向にある**と言える。

# 総括

## ■集計結果2: キャリア教育の目的・内容・評価(p17~p22)

### 実施目的

「職業意識を持たせる」(22.2%)

### 実施の必要性

「必要であると感じている」(42.7%)

「必要性を強く感じている」(38.0%)

### 最も効果が高かった取り組み

「外部講師」(19.8%)

「就業体験」(19.8%)

キャリア教育導入年数が長いほど「外部講師」への評価が高くなっている。

平常授業と異なる生徒の反応も大切と認識

### 生徒の反応・変化

「物事への興味・関心が高まっている」(23.3%)

「学習意欲の向上」(18.1%)

自主性ややる気を育む場として捉えている

### 過去の取り組み

「外部講師を招いての講演」(19.8%)

### 現在の取り組み

「外部講師を招いての講演」(16.4%)

### 保護者の評価

「特に意見は出ていない」(43.8%)

「概ね好評である」(29.7%)

キャリア教育の取り組み状況を保護者にも丁寧に説明する必要があると推察される

### 効果測定・評価基準

「振り返りシート作成」(31.1%)

次いで「感覚的な評価」「行っていない」となっており、効果測定の見える化や厳密な評価基準は行われていない傾向にある

## 目的・内容・評価

・実施の目的・狙いは、「職業意識を持たせる」(22.2%)が最も多かった。キャリア教育という名目上、「学力の向上につなげる」(9.3%)は6番目と低かったが、「学習意欲向上」(20.0%)は2番目に高い結果となった。直接的な目的として“学力”に結びつけることは避けているように見受けられるが「**学力の向上**」も相乗効果として期待していることが窺える。

・必要性については「必要であると感じている」(42.7%)、「必要を強く感じている」(38.0%)の順で、合計すると80.7%と8割を占める結果に。生徒の反応・変化、振り返りシートなどでの効果を感じ、**ほとんどがキャリア教育の必要性を認識**しているといえる。

・取り組みに関しては、過去および現在も同じく「外部講師を招いての講演」が挙げられた。集計結果1の今後実施したい内容と同様でもあり、**自校だけでなく外部の力をかりる(かりたい)必要性を感じている**。「職業調べ」は、生徒たちが実際の職業を真剣に考える取り組みとしての評価が高く、過去の取り組みからランクアップしている。

・最も効果が高かったのは「外部講師」(19.8%)と「就業体験」(19.8%)となった。**授業とは異なる体験に魅力を感じる生徒が多く、生徒の意外な側面を発見することができるなど副次効果もある**としている。「外部講師」に関しては、導入年数が長いほど効果があるとしており、評価が高い結果となった。

・生徒の反応・変化は「物事への興味・関心が高まった」(23.3%)、「学習意欲の向上」(18.1%)が上位結果となった。**自主性や意欲などを育む場と捉えている結果になったが、その裏側には学力向上も意識している**ことがわかる。一方の保護者は「特に意見は出ていない」が多いが、次いで「概ね好評である」という結果をみると一定の評価をしている様子。「特に意見は出ていない」が多いことを考えると、**保護者に対する取り組み状況の説明などの必要性がある**と推察される。

・効果測定及び評価基準は「生徒に振り返りシートを作成させている」以外、効果測定の見える化や厳密な評価基準は行われていない。**キャリア教育の導入年数が長いほど「振り返りシート」の導入が高い結果となった**。

# 総括

## ■集計結果3: キャリア教育の今後の取り組み・課題 (p23~p25)

### 今後の取り組み

**「現在の取り組みを  
継続・強化していく」**(42.7%)

**「現状のままでいく」**(25.5%)

「取り組みを継続・強化していく」が最も高い結果となった。導入年数が長いほど「現状のままでいく」傾向が強くなっており、プログラムを固定化し、継続性のある安定したキャリア教育を実践していると推察される。

**「取り組み時間の増加」**(13.5%)

導入年数の長短に関わらず、**新たな取り組みにチャレンジしたいと考える学校も多い。**

### キャリア教育の課題

**「時間の確保」**(25.1%)  
**「教員の労働負担」**(17.4%)

「時間の確保」が大きな課題となっており、それが「教員の労働負担」につながっている。

**「就業体験先等となる  
企業の選択」**(13.4%)

企業選択の手間や基準、ツテがない等々の理由が考えられる

### 差別化要因に成り得るか

**「内容によっては成り得る」**(45.8%)  
**「何とも言えない」**(21.4%)

キャリア教育の「効果の可視化」が出来ていないため判断できない。

### 学校経営の解決すべき課題

**「生徒募集」**(26.5%)  
**「教科・科目学力指導」**(25.5%)

上記課題の共通項は学力向上

### 目的・内容・評価

・今後の取り組みは、「現在の取り組みを継続・強化していく」(42.7%)が最も多く、次いで「現状のままでいく」(25.5%)となった。一方で「新たな取り組みを増やしていく」(13.5%)も多く、現状に満足せず新たな取り組みにチャレンジする姿勢もみられる。導入年数による違いは、「現在の取り組みを継続・強化していく」「取り組み時間の増加」にはみられないが、「現状のままでいく」については、導入年数11年以上の割合が高く、10年以内の割合は低い結果となり、違いがみられた。**導入年数が長いほど「現状のままでいく」傾向が強く、キャリア教育のプログラムの固定化が進んでいると推察される。**

・キャリア教育の課題に関しては「時間の確保」(25.1%)、「教員の労働者負担」(17.4%)が上位となった。キャリア教育を中止、あるいは実施しない学校の理由の第一として、「時間がない」が挙がっており、「時間の確保」がいかに大変かがこの結果に現れている。特に中高一貫では「校内の意思統一」は高等学校より図られているが、「時間の確保」が不足している傾向となった。中高一貫のメリットとして長期的にキャリア教育の取り組みを行っていることが挙げられる一方で「時間がない」状況を見ると、キャリア教育プログラムの充実が時間不足を引き起こしているとも考えられる。そのため中高一貫ではプログラムは充実している反面、**内容の精査や効率化が課題**となるであろうと想定できる。

・差別化要因に成り得るかに対しては「内容によっては成り得る」(45.8%)との回答が多かった。体系立てたプログラムを構築することによって差別化できると考えているようだ。次いで「何ともいえない」(21.4%)が多くなっており「キャリア教育効果の可視化が出来ていない」ため、差別化となっているかさえ判断できない状況にあることがわかる。

・学校経営の解決すべき課題は、「生徒募集」(26.5%)が最も高く、生徒獲得に苦心していることが窺える。一般的に受験の良否が生徒募集に反映されるため、学力の向上が「生徒募集」の解決につながると考えられる。2番目には「教科・科目学力指導」が挙がり、学力向上を課題として捉えている。キャリア教育の側面から考えると、**キャリア教育が学力向上につながっていることを現し、その効果を可視化することが学校経営の課題を解決する一つの手段である**と言える。



# 総括

## ■課題・問題点

キャリア教育に関して、今回のアンケートにより、以下の課題・問題点が明らかとなった。

### 1 プログラム設計に苦慮

- ・殆どの学校でキャリア教育を導入しているが、その多くは近年の新しい取り組みであり、キャリア教育の詳細内容や取り組み方法などプログラム設計・構築に苦慮している。

### 2 時間の確保が困難

- ・教員不足などを背景とし、キャリア教育によるプログラムの拡充は教員の労働負担となっており、教員および時間の確保が困難である。「取り組みを継続・強化する」学校が多い中であって、今後はプログラムの見直しや効率化も必要となってくる。

### 3 自校のみでは限界（外部委託）

- ・普段の教員とは異なる外部講師からの新しい刺激や説得力に期待した「外部講師を招いての講演」の人気の高い。これと併せて、時間の確保が困難となっており、自校のみでは限界があることから外部委託したい考えも持っている。

### 4 学力向上につなげたい

- ・生徒の自主性や意欲などを育む場としての目的は達成出来ている。しかしながら、その次の効果として期待している「学力向上」につながっているかは不明。効果測定の可視化が出来ていない。

### 5 効果がみえにくい

- ・「生徒に振り返りシートを作成させている」以外は、効果測定の見える化や厳密な評価基準は行われていない。感覚的な評価のため効果がみえにくくなっている。

### 6 保護者への十分な説明

- ・保護者からの評価は「特に意見は出ていない」が最も多く、満足・不満足の評価がつかない状況となっている。関心がないからとも推察できるが、キャリア教育の取り組み状況等、保護者に対する説明も必要性があると考えられる。

### 7 他校との差別化を図りたい

- ・殆どの学校で、キャリア教育の「内容によって他校との差別化を図れる」と考えている。ただし、その指針がないため「何をどのように実施すれば差別化できるか」等々については判断ができない状況となっている。

---

## ■ 集計結果1 : キャリア教育実施状況

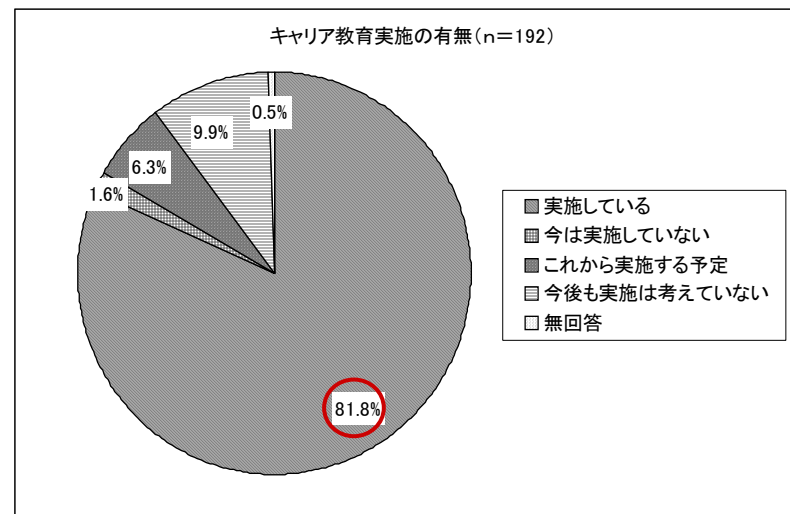
# キャリア教育の実施有無 全体・校種別

Q.貴校ではキャリア教育を実施していますか？

## 8割以上の学校がキャリア教育を「実施している」(81.8%)

全体	192
実施している	157
以前は実施していたが今は実施していない	3
実施していないがこれから実施する予定	12
実施していない。今後も実施は考えていない	19
無回答	1

- 81.8%がキャリア教育を実施。「これから実施する」も6%あり、今後も導入が進むと想定される。
- その一方で「今後も実施しない」を方針とする学校が10%程度あり、実施意向のない学校も存在する。

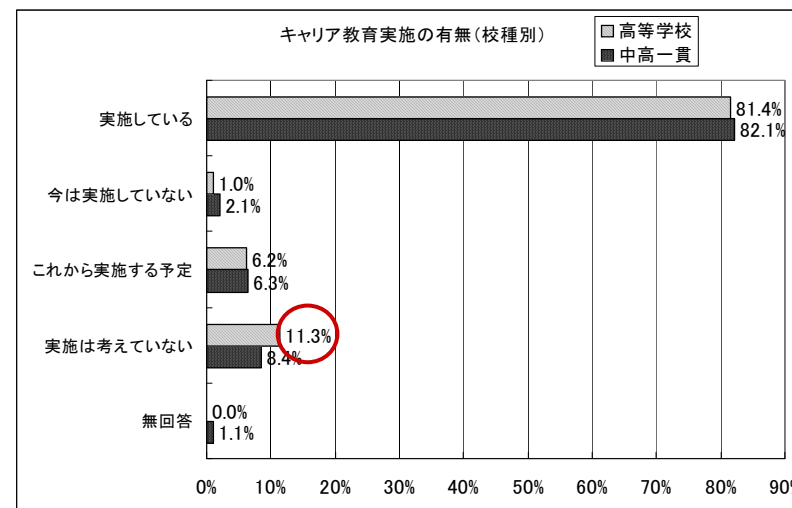


校種別(中高一貫、高等学校)キャリア教育実施の有無

## 校種別の違いはみられない。 高等学校の「実施は考えていない」(11.3%)が、若干多い傾向

	中高一貫	高等学校
実施している	78	79
以前は実施していたが今は実施していない	2	1
実施していないがこれから実施する予定	6	6
実施していない。今後も実施は考えていない	8	11
無回答	1	0
全体	95	97

- 校種別による違いはみられない。中高一貫および高等学校ともに同じような傾向にあり、差はない。
- 高等学校の「実施は考えていない」が、中高一貫より若干多い傾向にある。受験に注力していると想定される。



# キャリア教育の導入年数 全体・校種別

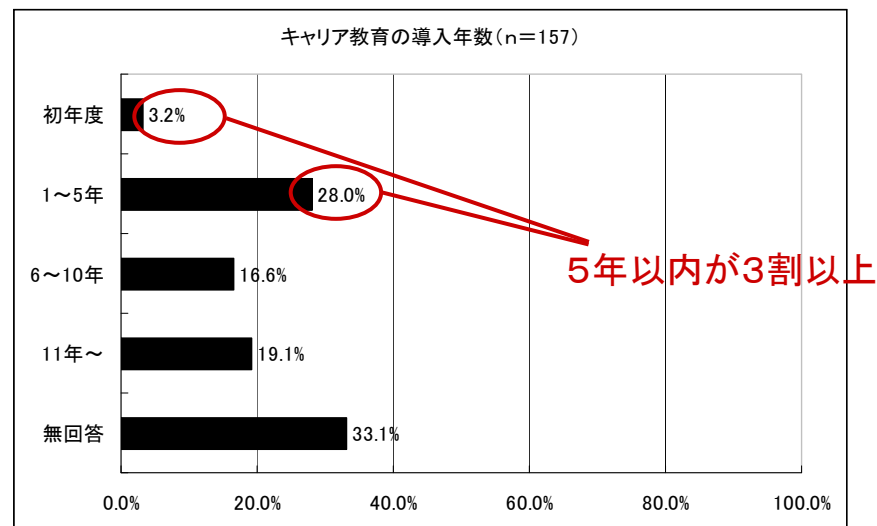
Q.実施している場合、キャリア教育の導入年数を教えてください。

**初年度を含めた「5年以内」で3割以上を占める (31.2%)**

全体	157
初年度	5
1～5年	44
6～10年	26
11年～	30
無回答	52

■キャリア教育実施後5年以内で31.2%、10年以内を含めると47.8%となった。11年以上は19.1%のため、実施後間もない学校が多い。

■無回答も33.1%と3割以上を占める。「何を持ってキャリア教育なのか」という曖昧さもあり、明確に回答できないものと想定される。



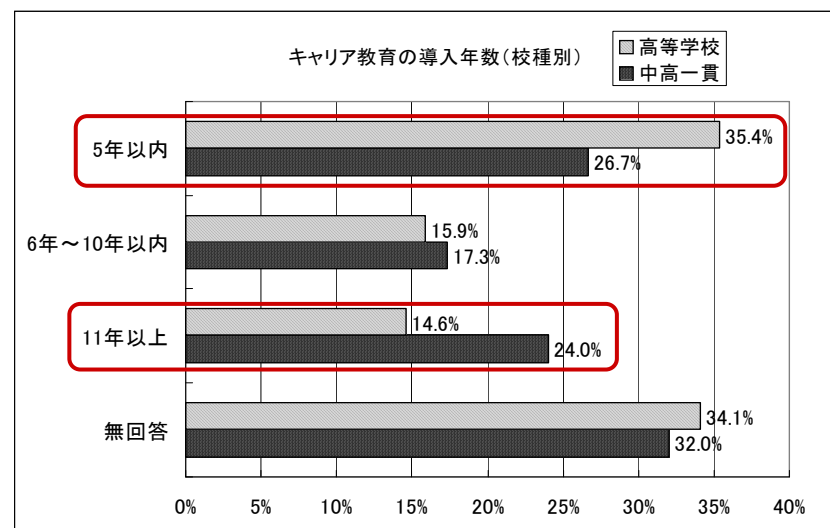
校種別(中高一貫、高等学校)キャリア教育の導入年数

**中高一貫は、高等学校より早くからキャリア教育を導入している (中高一貫 11年以上:24.0%)**

**高等学校は、中高一貫と比較すると「5年以内」の割合が高く新しい取り組みであることがわかる (高等学校 5年以内:35.4%)**

■5年以内は、高等学校が35.4%で、中高一貫が26.7%という結果となり、高等学校の4割弱は5年以内の導入年数となっている。

■11年以上は、中高一貫が24.0%で、高等学校が14.6%という結果となり、中高一貫の2割以上はキャリア教育を古くから(11年以上前から)導入していることがわかる。



# キャリア教育 実施有無の理由

Q.過去にキャリア教育を実施していたが、今は十分に実施していない。その理由は何ですか？

理由:「**担当教員の不足や他の教科等で時間がない**」

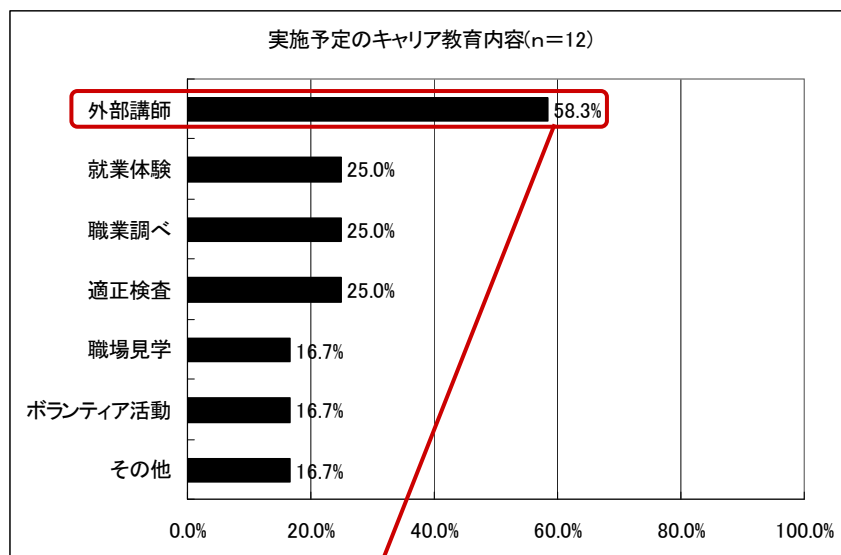
全体	192
実施している	157
以前は実施していたが今は実施していない	3
実施していないがこれから実施する予定	12
実施していない。今後も実施は考えていない	19
無回答	1

■3校と少ないが、それぞれの理由は以下のとおり。

- ・教科指導の妨げとなる
- ・担当教員の不足
- ・土曜授業を導入した(時間がない)

Q.現在はキャリア教育を実施していないがこれから実施する予定がある。それはどのような内容か教えてください。(複数回答)

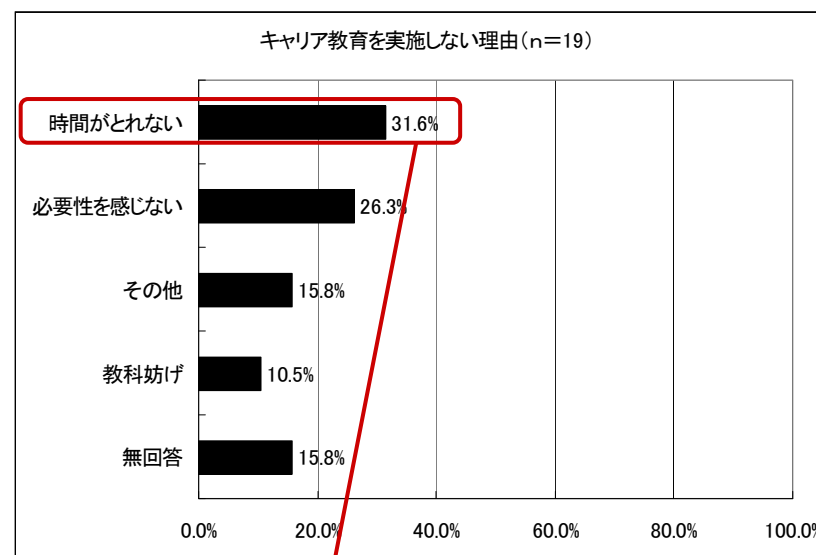
「**外部講師**」(58.3%)が最も多く、その他の内容は意見が分かれた



- 外部講師が58.3%と最も高い。普段授業を実施している教諭が説明するより、外部講師のほうが「説得力を持つ」との意見が多かった。
- 次いで、就業体験、職業調べ、適性検査が続く

Q.今後もキャリア教育を実施しない理由を教えてください。(複数回答)

「**準備のための時間がとれない**」(31.6%)



- 準備のための時間がとれないが31.6%と最も多く「過去にキャリア教育を実施していたが実施しなくなった」場合の「時間がとれない」と同様の理由となった。

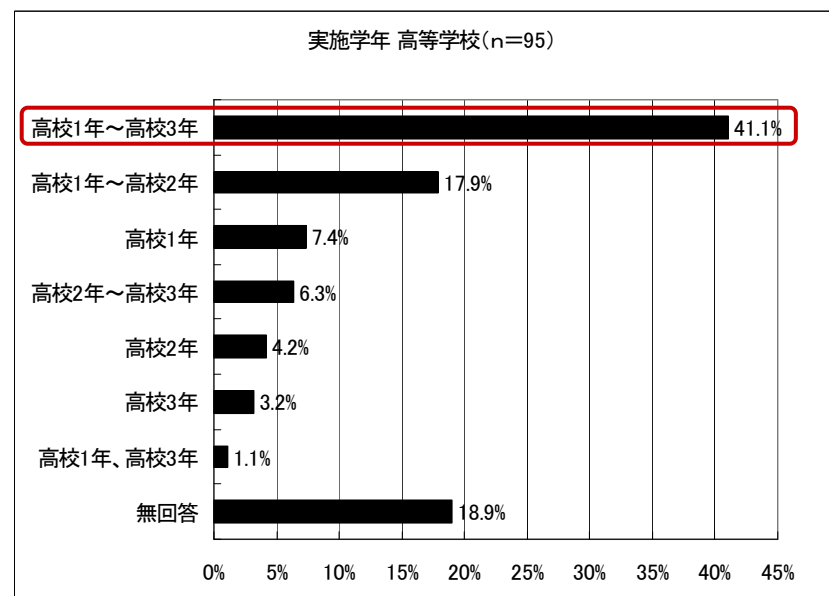
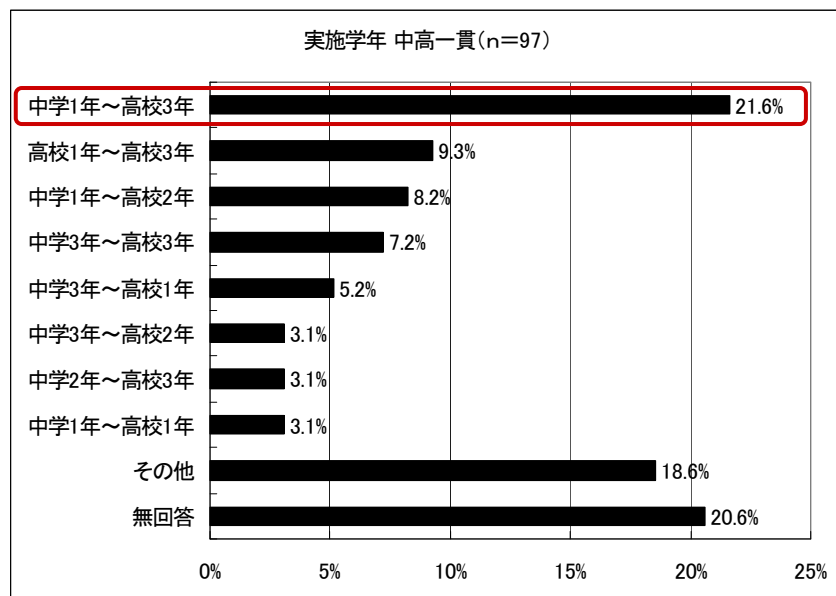
# キャリア教育の実施学年 校種別(中高一貫・高等学校)

Q.キャリア教育を実施している学年について、教えてください。

**中高一貫は「中学1年～高校3年」(21.6%)が最も多く、次いで「高校1年～高校3年」(9.3%)となった。就学期間の6年間を実施期間とするケースが最も多く、長期的に取り組んでいることがわかる。高等学校は「高校1年～高校3年」(41.1%)が最も多く、次いで「高校1年～高校2年」(17.9%)となった。就学期間全てを実施期間とし、中高一貫と同様に長期的な取り組みを行っているが、次いで多かった「高校1年～高校2年」からわかる通り、受験期を除く配慮も窺える。**

	中高一貫	構成比
中学1年～高校3年	21	21.6%
高校1年～高校3年	9	9.3%
中学1年～高校2年	8	8.2%
中学3年～高校3年	7	7.2%
中学3年～高校1年	5	5.2%
中学3年～高校2年	3	3.1%
中学2年～高校3年	3	3.1%
中学1年～高校1年	3	3.1%
その他	18	18.6%
無回答	20	20.6%
全体	97	100.0%

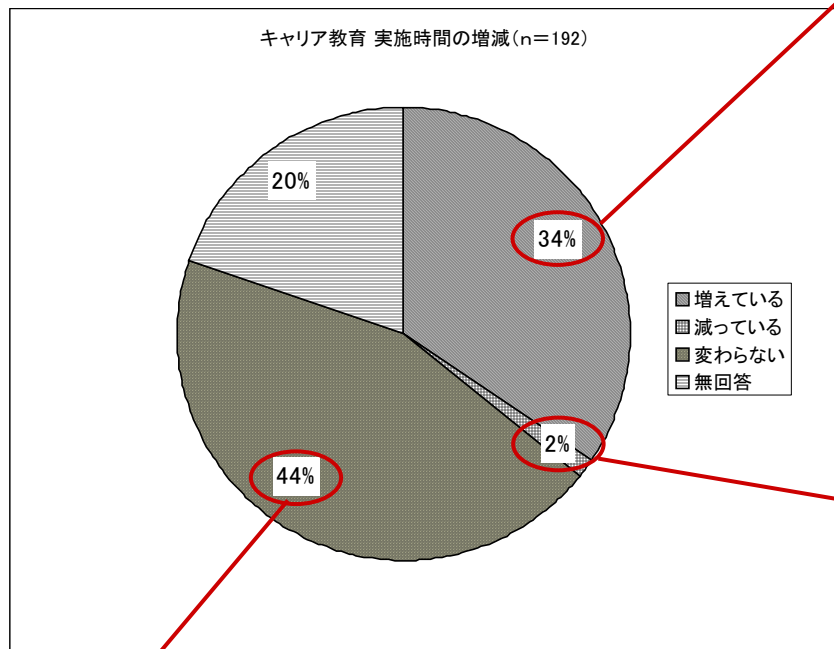
	高等学校	構成比
高校1年～高校3年	39	41.1%
高校1年～高校2年	17	17.9%
高校1年	7	7.4%
高校2年～高校3年	6	6.3%
高校2年	4	4.2%
高校3年	3	3.2%
高校1年、高校3年	1	1.1%
無回答	18	18.9%
全体	95	100.0%



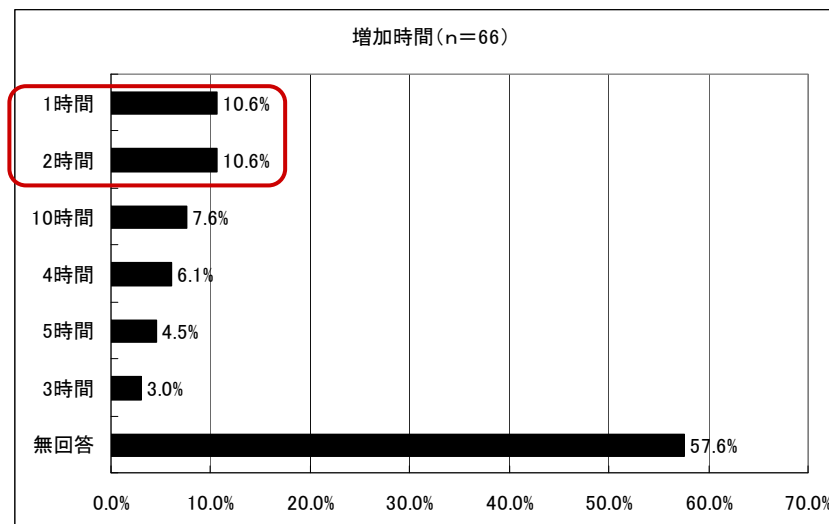
# キャリア教育の実施時間 変わらない理由・減っている理由

Q.現在のキャリア教育実施時間は導入当初と比べて増えていますか？減っていますか？またその理由を教えてください。

「変わらない」(44.0%) 「増えている」(34.0%) 「減っている」(2.0%)



■ 増えている時間 (※理由は次ページ)



■ 減っている時間 (3件: 2時間×2、10時間×1)

【減っている理由】

- ・総合学習に他の時間を入れたため
- ・特定学科の募集を停止したため(就職者数の減少)。
- ・スタート時が多過ぎたため

【変わらない理由】

- ・時間に余裕がない
- ・今年度、初めての試み
- ・増やしたい思いはあるが、増やせる余裕がない。
- ・週に1時間、授業と同様に実施しているため固定化している。
- ・就職試験が間近に迫った時期に行うことが有益であるため増やしていない。
- ・実施したばかりで、行事など見直しながら進行しているので、ほとんど変化はない。
- ・実施内容は変更しているが、実施時間は変わっていない。
- ・自校のみのプログラムでは発展性がないため、なかなか充実させることができないので時間も変わっていない。
- ・行事の都合上、これ以上増やせない。
- ・今後、実施していくので現在はわからない。
- ・主に総合学習を通してキャリア教育を行っているが、本来は日常授業の中で実施すべきと考えている。

- ・時間は変わらないが、内容の充実に努めている。
- ・以前行っていた進路指導を見直したり精選したりすることなので、特に大幅な時間の変更はない。
- ・1～3年生に対し、毎年同じプログラムで実施しているので、時間は変わっていない。
- ・業者テスト、総合の時間を使って計画的に行っており、現時点では変わっていない。
- ・十分な成果を感じている
- ・ある程度確立している
- ・学校設定科目の時間で実施しており、当初計画した時間配分で十分な効果をあげている。
- ・行事の固定
- ・月1回という年間計画で実施している
- ・追加する取り組みがないから
- ・今後、中1・中2でも実施を考えていきたいので増やす予定はある。
- ・きちんとプログラム化されていないので時間増減の検討は進んでいない。

# キャリア教育の実施時間 増えている理由

Q.現在のキャリア教育実施時間は導入当初と比べて増えていますか？減っていますか？またその理由を教えてください。

## 【増えている理由】

- ・実施内容が増えているため
- ・外部講師による講演の必要性
- ・インターンシップ、職業体験、キャンパス訪問、見学会などが増えている
- ・講演会の数が増えている
- ・当初はキャリア教育をする時間とLHRを分けて実施していたが昨年から同一曜日に連続して行っているため実質増えている。
- ・20年以上にわたって、毎年少しずつ充実させている(例えば、クエストエデュケーションプログラムの導入など)。
- ・適性検査による自己理解から、本校出身の社長さんや人事の方の講演、そして仕事館への見学、職場見学、そして進路ガイダンスとプログラムは増加している。
- ・卒業生のお話を聞く機会を増やしたため
- ・大阪府の職業APのモデル校であったこともあり、学内外で積極的にガイダンスを実施したり、参加したりしている。
- ・グローバル化する社会で求められる資質を中高生のうちに育成する必要性が増しているため。
- ・企画が多数生まれたため
- ・総合的な学習の時間で以前は基礎学力的なものが多かったが、昨年度より見直し、教務や進路の協力のもとで、学年毎に外部講師を招いたり、内部短大・大学の模擬授業など内容を図っている段階。
- ・昨年度初めて実施し、少し内容を充実させたため。
- ・中等部の時間が増加した。
- ・ホームルーム活動を利用し、将来の自分について考えさせることで、学校生活が意欲的になるので結果的に増えている。
- ・情報量が増えたことに伴い、生徒・家庭に情報を入手し考えさせる取組みに変えていく上で、説明、作業、行事が増えたため。
- ・導入時は、希望者が3日間行いうインターンシップのみでした。現在では高1～高3の「総合的な学習の時間」に毎週行っている。
- ・文理選択が高2から高1に早まったため
- ・当初は進路決定の3年生対象の内容であったが、早期取組みの必要性や、教員の要望から前倒しし、今では1年生から実施している。
- ・早期から社会に目を向けることが肝要であると考えられるため(分離選択、大学進路確定に向けて有意義であるため)

- ・自分の人生を豊かにするために、自分自身を高めるという必要があり働くことが生きることであるという高い意識改革を求めている。
- ・生徒に多方面から付加価値をつけたいから。
- ・中学は変わっていないが、高校ではプログラム実施が定着し、教員が積極的に取り組むようになった。
- ・必要と感じているから。
- ・振り返りを中心に、自分たちが行って来たことを生徒に認識させ、自己理解を深めるため。
- ・HR、総合の利用、行事として導入
- ・進路の多様性が社会の多様化に連動しているため
- ・カリキュラム内に「キャリアデザイン」という独自科目を組み込んだため。各学年3時間ずつ設定している。
- ・将来の職業について考えさせる時間が必要であるので。
- ・近年の取り組みを整理し、体系化する必要性の高まりから、新たな各学年の関連行事が増加している
- ・短大との連携授業の形で生徒たちの将来の職業上のスキルアップを考慮した講座を週2時間実施
- ・保護者・卒業生の協力が多く得られるようになって、プログラムが多様化した。
- ・具体的な時間数は明確ではないが内容を増やしている
- ・中等部は自分の好きなものを答えられない生徒が増えた。高等部は大学と将来の職業を結びつけて考えられない生徒が増えた教育活動の中に、キャリア教育の考えを取り入れていこうとしているので。
- ・外部の講師を招いての講演が増えてきた
- ・進路指導にとってキャリア観の確立が指導の基盤となるから
- ・総合的な学習の時間として、進路指導部、職業指導部、教務部の3部署が話し合い、生徒の授業の人生設計に関わる教育を充実していこうとの考えを学校として持っている。
- ・大学進路希望者が増えたので、しっかりと意識で授業を考え学部等の選択してもらいたいため
- ・企業訪問等の機会が増えている。
- ・就職が難しいため生徒へ職業意識をもっと持ってもらうため
- ・2000年より高校ができたため
- ・数回に分けて、キャリアガイダンスを実施



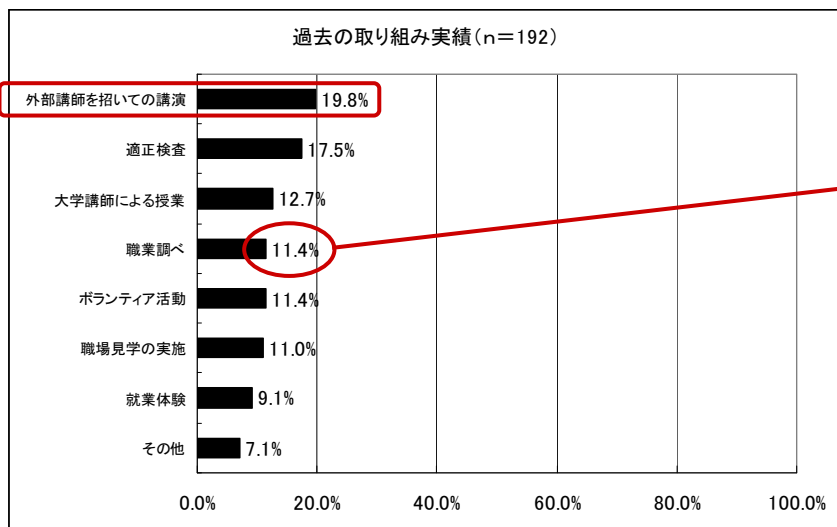
---

## ■ 集計結果2 : キャリア教育の目的・内容・評価

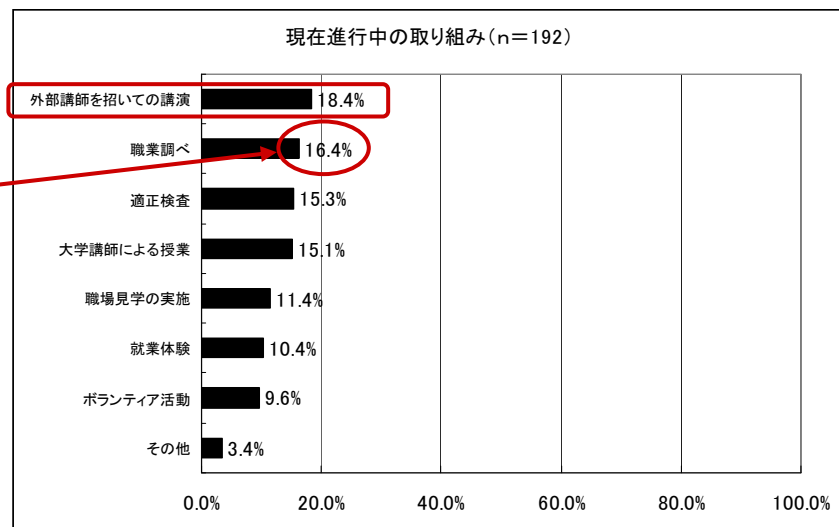
# キャリア教育の取り組み内容 過去・現在

Q.これまでどのような取り組みを実施しましたか？また現在はどのような取り組みを行っていますか？（複数回答）

過去の取り組み:「外部講師を招いての講演」(19.8%)



現在の取り組み:「外部講師を招いての講演」(18.4%)



## 【過去の取り組み(その他)】

- ・卒業生で各種の仕事に従事しているものを招いて、保護者、先輩による講演
- ・進路ガイダンス
- ・ディベート、地域、行政と連携した取り組み、自然科学研究授業
- ・進路見学体験として各分野の大学～専門学校に訪問する体験会
- ・ダイアログ研修、各種専門授業、働く卒業生、作法指導等
- ・大学・短大・専門学校へ訪問し、模擬授業、実習を受ける。

## 【現在進行中の取り組み(その他)】

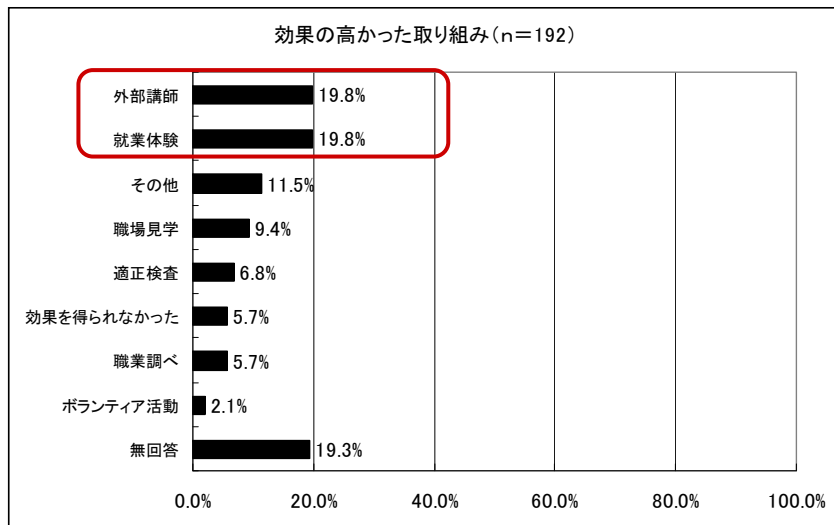
- ・大学・専門学校を利用した就業・就学体験
- ・ボランティア、情報、キャリアの3クラスに分けて、週2時間学科選択授業を実施している。
- ・卒業生を招いて職場体験の話、その職業につくにはどういう勉強が必要かをレクチャーするセミナーを設けている。

過去と現在も「外部講師を招いての講演」が最も多い。現在の取り組みでは「職業調べ」がポイントアップしている。

# キャリア教育の取り組み内容 最も効果が高かった取り組み

Q.これまでの最も効果が高かった取り組みは何ですか？

「外部講師」(19.8%)、「就業体験」(19.8%)



## ■効果が高かった理由

- ・意識の変化が見られた
  - ・職業・社会に対する意識が強まったから
  - ・短期間ではあるが、実際に企業に行き希望する職業を身をもって体験することは将来の進路を決めるにあたり大変有意義である
  - ・平常授業と異なるところで生徒の「知」への驚き、興味を促進できた点。そこから平常授業の大切さを改めて認識できた点
  - ・様々な働く現場を見ることで、将来の自分の仕事としてどうか本気で考えるようになる。
  - ・身近な先輩の話や聞くことで「自分も・・・」という気持ちになれるから
- 本校では2年生で就業体験を全体で実施。実施前に取り組み目標を設定し達成努力をさせる。体験後も振り返りの取組みや情報の共有の中で、3年生の進路選択への準備に大いに役立っている。進路未定の大幅減少につながった。
- ・実際の社会における経験は、職業観を得るためには効果的。
  - ・現在、大学の出前授業等しか行っていないが、就業体験などさせることにより、マナーや社会と学業のつながりなどを理解する効果があると思われる。

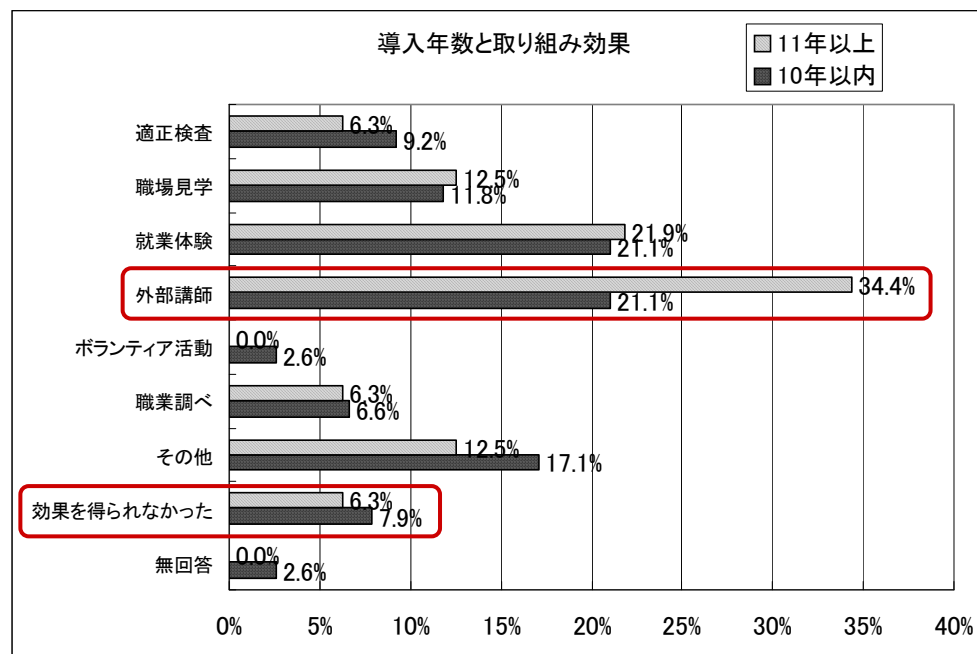
- ・将来の目標が明確になり、意欲向上につながった
- ・進路適性検査を実施することで、進学大学の各学部の適性ばかりではなくその先にある職業にも目を向けさせることが出来る。本校では保護者(各職業で活躍されている)に毎年5〜10名程度お話をお願いしており、身近な体験を聞くことにより目標を持ちやすい利点がある
- ・多くの生徒がその道のプロの講話を聞くことで、日常の生徒間の変化が生じてくる
- ・今の生徒は生活体験に乏しく、視野が狭いので半強制的に外へ連れ出すことには意義がある。
- ・インターンシップ等を計画する中で、生徒が希望する職場を紹介し、実際に働くことによって、学外との違いを肌で感じ取ることができる。
- ・自分自身のことを再認識する機会をとっていないため
- ・普段休みがちな生徒(特に中学生)も参加するなど、授業とは違った体験に魅力を感じているのではないかと考える。
- ・働くことの大切さ・楽しさを実感できる
- ・自分が体験したことで、現実的な考え方をもちたり、その分野に進むかどうかの判断材料になったりしている。
- ・意識の向上につながり、進路に対する意欲が高まった。
- ・真剣に話を聞く生徒に驚かされた。ただ講師の力量にもよっている
- ・大学教授や卒業生、会社経営者など、実際に触れた話は説得力があり効果が大きい。
- ・肌で感じるのが必要なのだと感じる。
- ・生徒自身が自分の適性を見出し、自分自身を見つめ直す良い機会となるため。
- ・4外部講師の講演(社会人、自衛隊、企業の社長)は生徒にとって効果があった。
- ・校内だけではなくなかなか社会のことが理解できない為、外部からOBや有識者による「生の声」を聞くことで、『自分にとって、何がすべきか』が理解できる。
- ・根底にラボラトリー方式(グループワーク)による効果をねらっている
- ・本校では、職業講話という形で、卒業生に20名ほどの異業種の方に来校いただき、興味のある職種の話をもつ聞いてもらっている。非常に理解しやすい。
- ・職業調べ→自ら調べることで自覚が生まれる
- ・学校の教員からの説明でないため、生徒たちにとって新鮮で、より現実味をおびているため。
- ・自らの意思で選択し、能動的に取り組むため、自身の進路選択に役立ることが多いように思う。

# キャリア教育の導入年数と取り組み効果

## キャリア教育導入年数と取り組み効果の関係

導入年数による違いの差は「外部講師」(10年以内:21.1%、11年以上:34.4%)が最も大きい結果となった。導入年数が長いほど、効果のある取り組みとして「外部講師」を挙げていることがわかる。

	10年以内	11年以上
適正検査	7	2
職場見学	9	4
就業体験	16	7
外部講師	16	11
ボランティア活動	2	0
職業調べ	5	2
その他	13	4
効果を得られなかった	6	2
無回答	2	0
合計	76	32



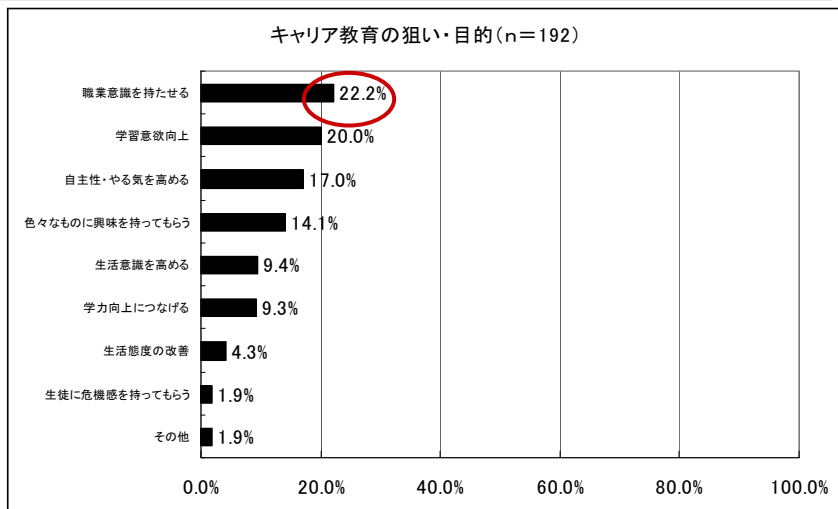
■前述の全体の結果「外部講師」(19.8%)、就業体験(19.8%)と比較すると、キャリア教育導入後11年以上の「外部講師」が突出した結果となった。全体でも効果の高い取り組みとして評価されているが、同じく効果の高かった「就業体験」と比較すると、導入年数が長いほど効果が高いと評価されていることがわかる。

■「効果を得られなかった」については、10年以内が7.9%で、11年以上が6.3%となった。キャリア教育の導入年数が短いほど効果が得られないことを現しており、長期的に取り組むことで、より効果が得られるといえる。

# キャリア教育の目的・評価

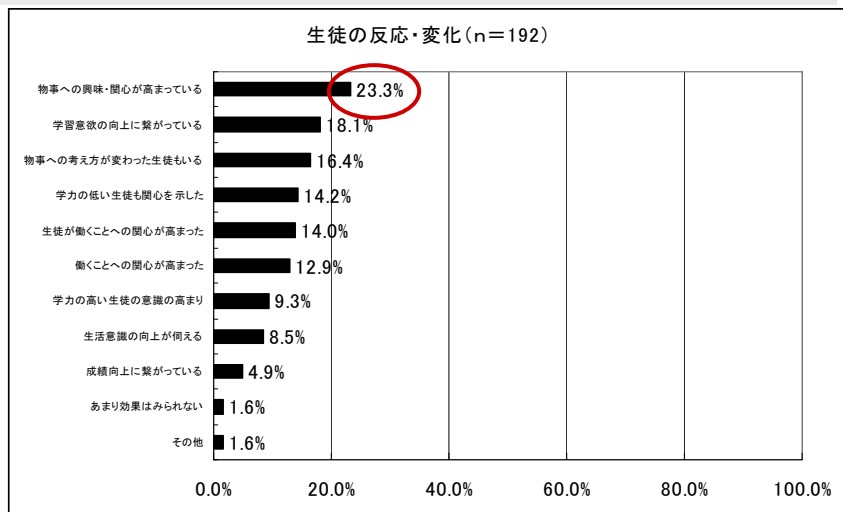
Q.キャリア教育を行う狙いは何ですか？(複数回答)

「職業意識を持たせる」(22.2%)



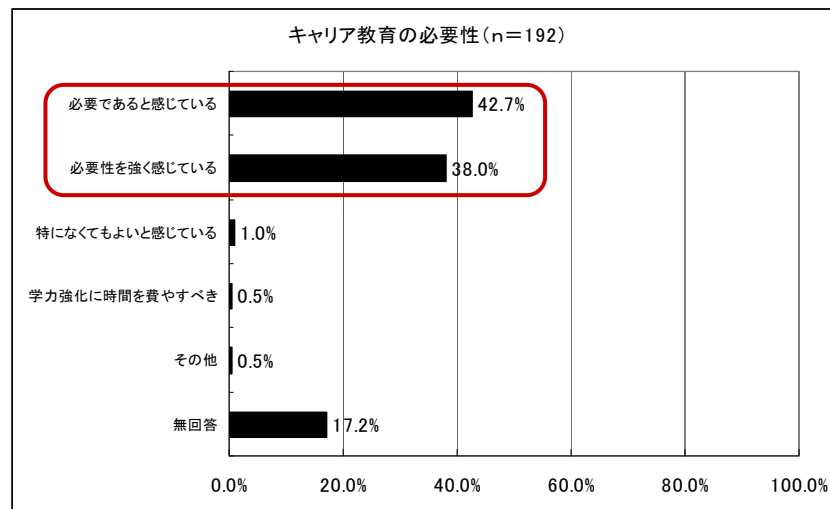
Q.キャリア教育の効果、生徒の反応・変化について(複数回答)

「物事への興味・関心が高まっている」(23.3%)



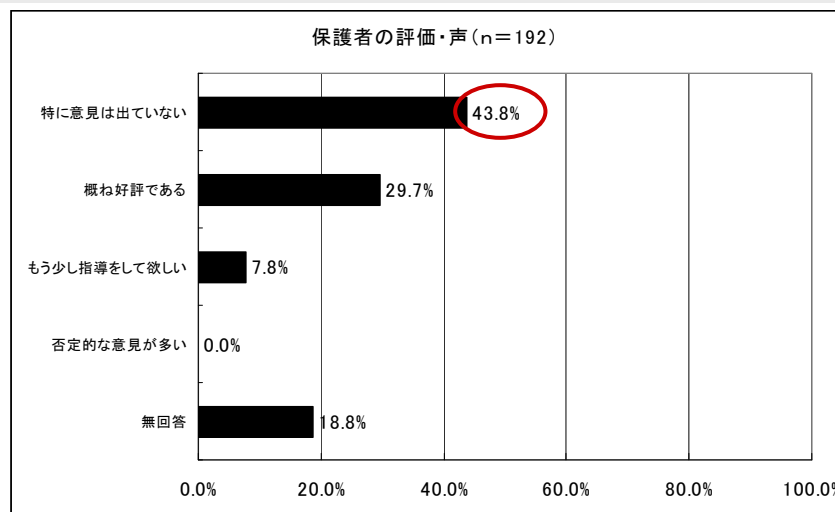
Q.キャリア教育の必要性についてどのような考えを持っているか？

「必要であると感じている」「必要性を強く感じている」(80.7%)



Q.保護者の評価・声について、教えてください。

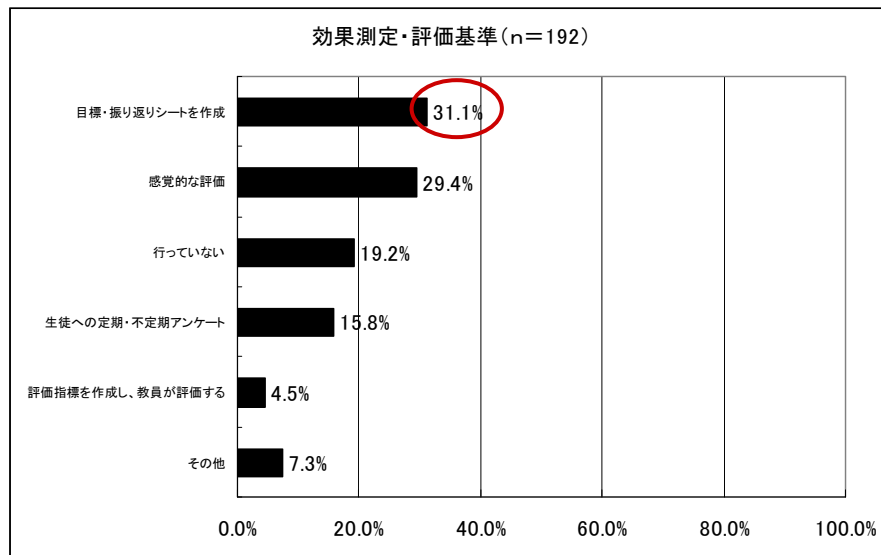
「特に意見は出ていない」(43.8%)



# キャリア教育の効果測定・評価基準

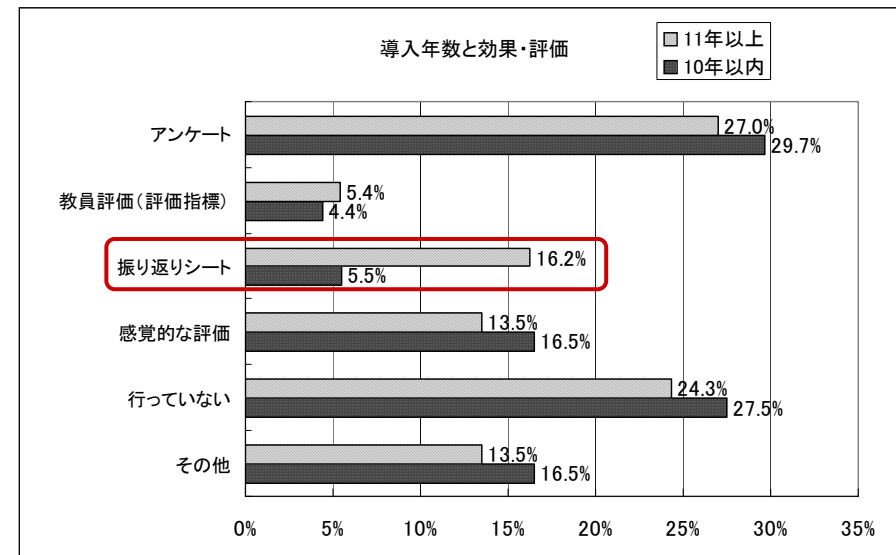
Q.キャリア教育の効果測定・評価基準はどのようなものですか？

「生徒に振り返りシートを作成させている」(31.1%)



導入年数と効果測定・評価基準の関係

評価基準として最も多かった「生徒に振り返りシートを作成させている」は、導入年数が長いほど効果が高い傾向



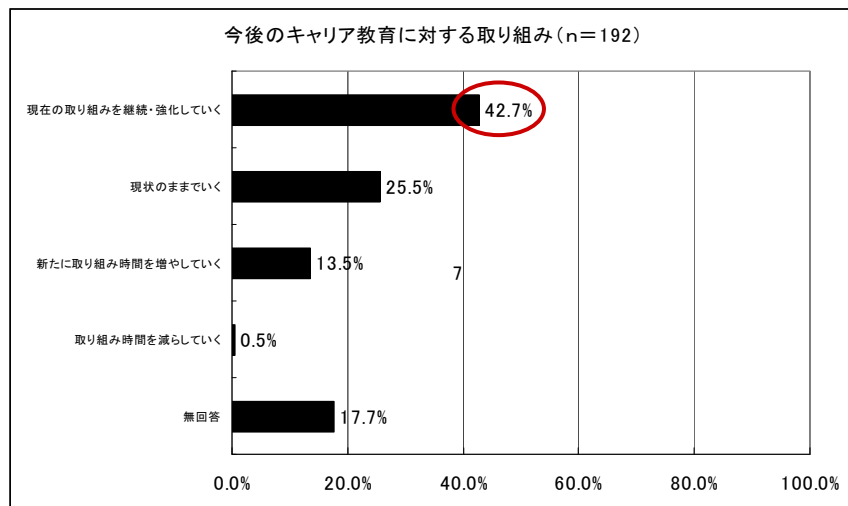
---

## ■ 集計結果3 : キャリア教育の今後の取り組み・課題

# キャリア教育の今後の取り組み・課題

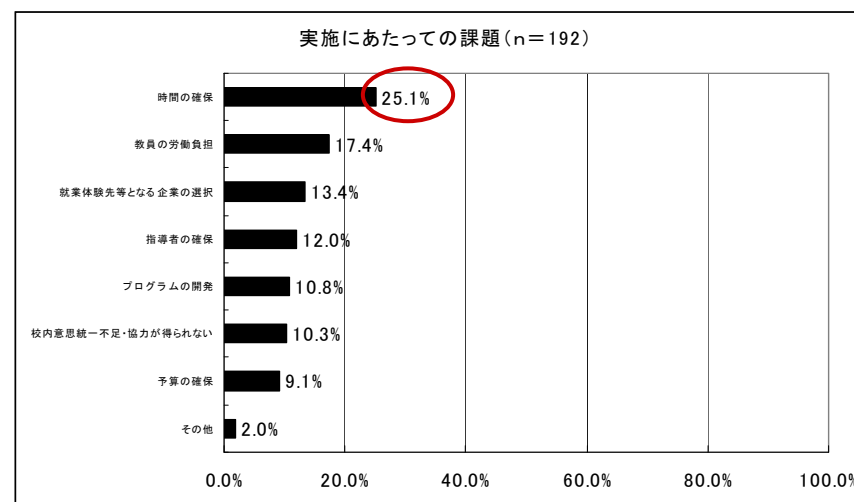
Q.今後のキャリア教育に対する取り組み

「現在の取り組みを継続・強化していく」(42.7%)



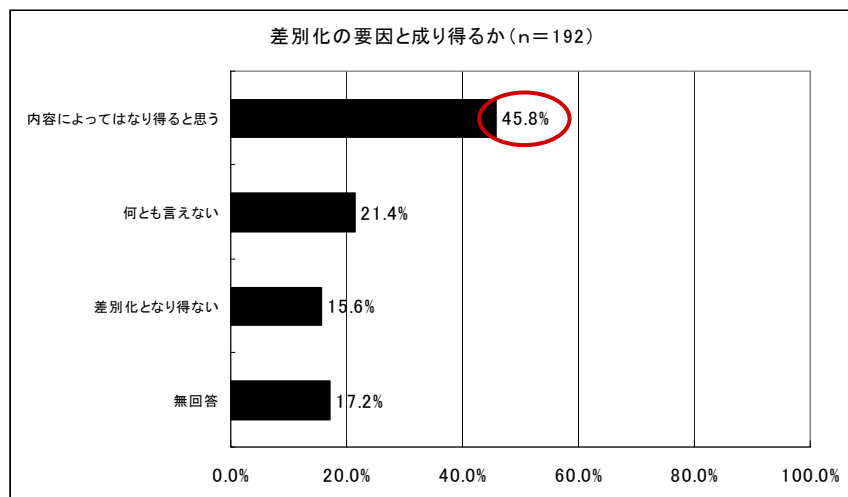
Q.キャリア教育実施にあたっての課題は何ですか？

「時間の確保」(25.1%)



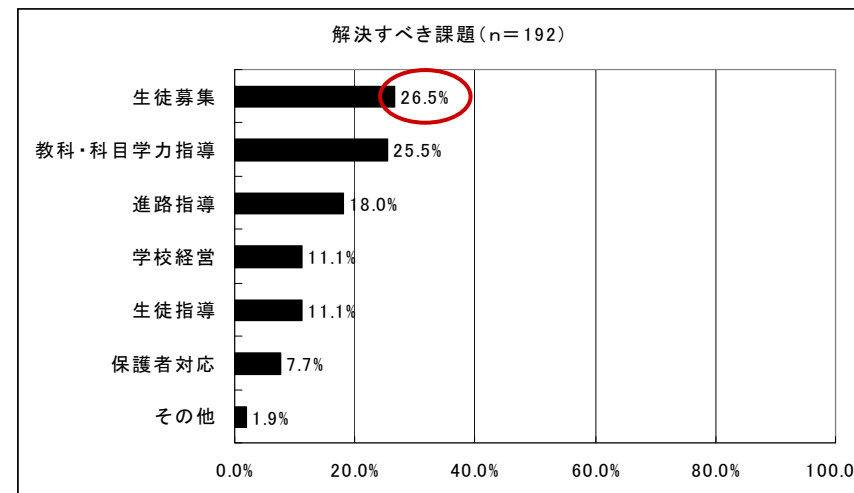
Q.他校との差別化を進めるにあたり、キャリア教育はその要因と成り得ますか？

「内容によっては成り得ると思う」(45.8%)



Q.近似の学校経営における「解決すべき課題」を教えてください。

「生徒募集」(26.5%)





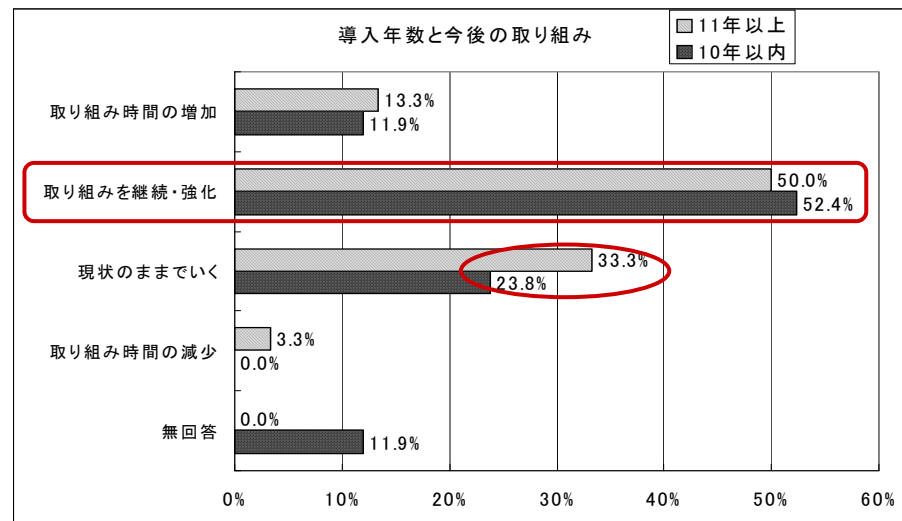
# キャリア教育の今後の取り組み・課題

## 導入年数と今後の取り組みについて

**導入年数に関わらず「取り組みを継続・強化していく」が最も多い結果に**(10年以内:52.4%、11年以上:50.0%)

	10年以内	11年以上
取り組み時間の増加	10	4
取り組みを継続・強化	44	15
現状のままでいく	20	10
取り組み時間の減少	0	1
無回答	10	0
合計	84	30

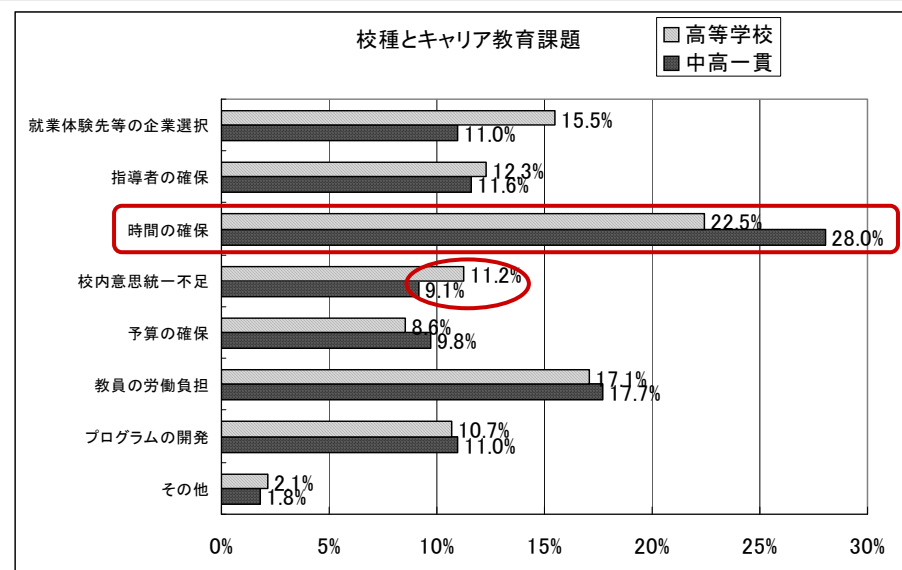
- 導入年数の違いに関わらず「取り組みを継続・強化していく」が最も多い結果となった。「取り組み時間の増加」についても導入年数による大きな違いはみられず、時間増には積極的。
- 導入年数が高いほど「現状のままでいく」が多い傾向にあり、プログラムが固定化された学校もあるようだ。



## 校種別とキャリア教育の課題について

**中高一貫のほうが「時間の確保」に課題を持っている傾向にある。一方で、高等学校より「社内意思統一不足」の割合が少なく、一貫校ならではの協力が得られやすい体制があるようだ。**

	中高一貫	高等学校
就業体験先等の企業選択	18	29
指導者の確保	19	23
時間の確保	46	42
校内意思統一不足	15	21
予算の確保	16	16
教員の労働負担	29	32
プログラムの開発	18	20
その他	3	4
合計	164	187

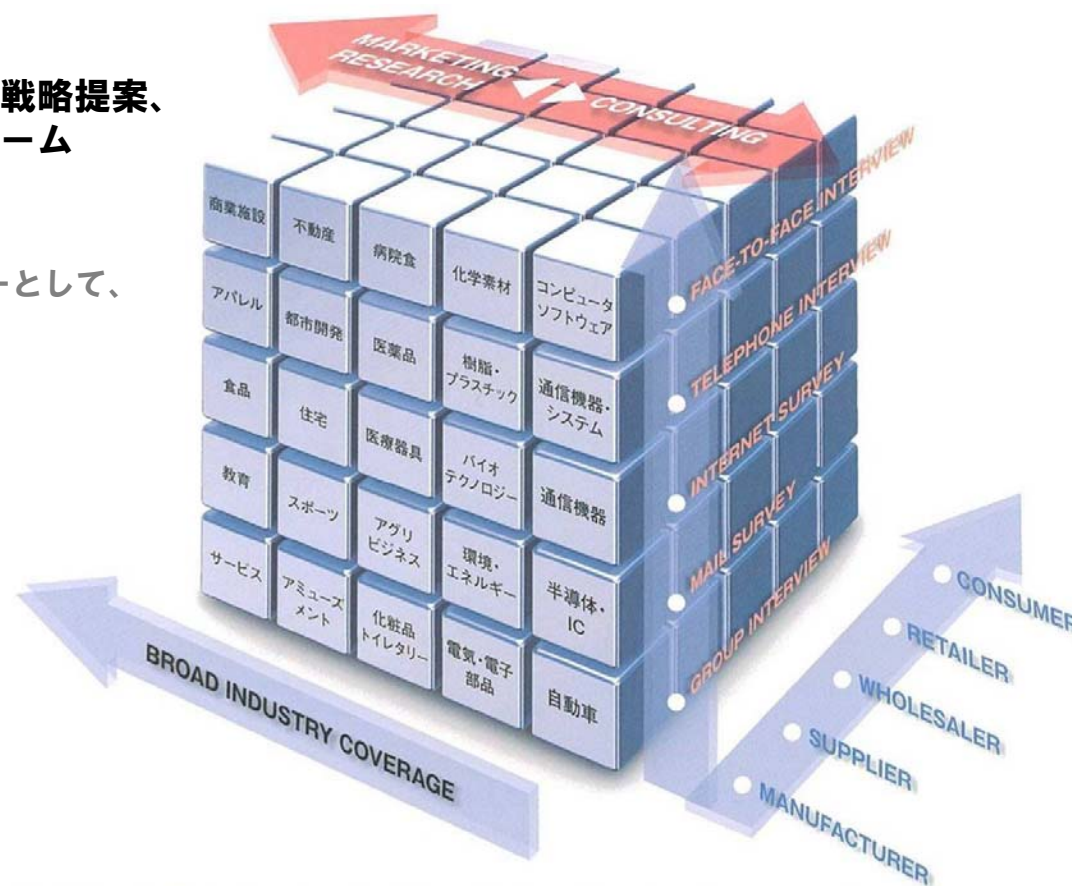


# 添付：矢野経済研究所 会社概要

フィールドワークをベースとした、現場本位の戦略提案、  
実力と実績のトータル・マーケティング・ファーム

ビジネス・インテリジェンスのリーディングカンパニーとして、  
他の追随を許さないデータストックを実現。  
「現場」に根付いた確かな未来予測を提供します。

- 事業概要
  - 受託調査
  - コンサルティング
  - トータルブランディング
  - 教育産業白書等のマーケットレポート発刊
  - 大学発ベンチャー支援等の事業化支援
  - 会員制ライブラリーサービス
- 会社名 株式会社 矢野経済研究所
- 本社所在地 〒164-8620 東京都中野区本町2-46-2  
中野坂上セントラルビル
- 加盟団体 社団法人 日本マーケティングリサーチ協会



## 「教育サービス事業」に関するお問合せ先

株式会社 矢野経済研究所 ブランディング部  
担当：池内、数藤(すどう)  
Tel. 03-5371-6922 Fax. 03-5371-6974  
URL: <http://kyoiku.yano.co.jp/>